あおもり民医連

2020年7月15日発行
【6面オールカラー】発行部数2,880部
第288号

発行元／青森県民主医療機関連合会
所在地／〒030-0822 青森市中央三丁目10番2号
TEL. 017（723）4076　FAX. 017（773）5326
URL http://aomin.jp/　e-mail info@aomin.jp

特集

青森県民主医療機関連合会
第55回定期総会

五月十六日（土）生協さくら病院にて青森民医連第五十五回定期総会を開催し、今後二年間の運動方針、決算予算、役員体制を確認しました。

今総会は新型コロナウイルス感染症のために、前回比で代議員数を百三十人から二十五人に、役員を四十八人から二十八人に縮小し、所要時間も一時間半に抑えるなど感染対策を講じて開催しました。

総会は、横田副会長の開会あいさつに始まり、田代会長のあいさつでこの二年間に亡くなった四名の仲間へ黙とう。その後運動方針案と決算予算案を提案し、通常であればここから全体討論と分散会で深めるところですが今回は行わず、役員投票に移りました。採択では運動方針案と決算予算案を満場一致で承認し、また圧倒的多数で役員を選出しました。

横田副会長と野村理事から退任あいさつをいただき大きな感動に包まれました（別掲）。新役員を代表して田代会長から「激動する社会のいま、人権を守る医療・介護・福祉活動の実践を積み重ね、共同組織とともに力を合わせていく必要がある。理事会はその先頭に立つ」と決意表明。相馬新副会長から閉会あいさつの中で、自身が近く青森保健に移籍することを報告されるとともに、「医療・介護の前進に努めていきたい。コロナで大変だがコロナ以外にも目を配る必要がある。これからも共に頑張りましょう」と呼びかけられ、総会を締めくくりました。

青森県民医連会長
田代　実

青森県連事務局長
佐藤　真人

準備にあたって県連規約が今回のような不測の事態に対応していないなど、次回総会へ向けた課題も判明しました。

今後二年間の基本方針

- 県連の将来を展望する「第四次県連中長期計画」の策定に着手します。
- 民医連医療を担う医師養成と医学対の飛躍を図ります。
- 全職員参加の経営を実践し、事業活動・経営活動の前進を図ります。
- 社会保障改悪とたたかい、いのちを守る運動の前進を図ります。
- 安倍改憲を許さず、憲法を守り生かし、平和を守る運動に取り組みます。
- きたる総選挙に主権者として臨むこと、選挙権を行使することを呼びかけます。
- 「医療・介護活動の２つの柱」の実践をさらに進め、受療権・人権を守る運動の前進を図ります。
- 共同組織とともに、安心して住み続けられるまちづくりに取り組みます。
- 民医連綱領を担う職員育成を図ります。
- 民医連の事業と運動を進める事務幹部養成を図ります。
- 運動体であり事業体でもある民医連の前進のために、県連機能の強化を図ります。

（青森民医連事務局長／佐藤真人）

発言通告用紙

通常、定期総会では全体会と分散会で各事業所から２年間の取り組みを報告しあい交流を深めます。今回は発言の時間を取れませんでしたが、積極的な報告を求めたところ４通の提出がありましたので紹介します。

◆健生病院／理学療法士　佐藤文勇
「県連リハビリテーション技術者政策の初めての作成と、その浸透を目指して」

◆ファルマ黒石薬局／薬剤師　大川誠也
「地域に根差した薬局としての薬剤部門の事例紹介」

◆日中サービス支援型共同生活事業所「花の郷」／世話人　神真理子
「社会福祉法人花の２年間の取り組みと今後の課題」

◆八戸医療生協本部／事務　下舘大史
「生協看護小規模多機能ホーム「虹の家」開設の取り組み」

青森県民医連第55期役員

役職名	氏名	職種
会長	田代　実	医師
副会長	伊藤　真弘	医師
副会長	相馬　裕	医師
事務局長	佐藤　真人	事務
事務局次長	下舘　大史	事務
事務局次長	篠原　奈緒	事務
理事	石田　晋吾	医師
理事	石塚　理仁	介護福祉士
理事	泉谷　雅人	事務
理事	磯島　寿人	医師
理事	伊藤　礼子	看護師
理事	小形てる美	事務
理事	角田　尚樹	事務
理事	菊池　中央	事務
理事	越田　潤子	看護師
理事	古舘　正志	事務
理事	今　淳一	事務
理事	坂戸慶一郎	医師
理事	崎野　修	事務
理事	佐々木良範	作業療法士
理事	獅子内和子	看護師
理事	関谷　修	医師
理事	相馬　渉	薬剤師
理事	副田　幸子	看護師
理事	竹内　一仁	医師
理事	竹本　歩	医師
理事	橘　千景	看護師
理事	田中　研	事務
理事	田中　由紀	看護師
理事	對馬　圭	理学療法士
理事	寺島　由美	看護師
理事	奈良原　恵	看護師
理事	西村　美和	薬剤師
理事	原　徹	医師
理事	兵藤　尚子	事務
理事	舛甚　清仁	事務
理事	三浦　良成	事務
理事	三津谷靖子	看護師
理事	宮本　達也	看護師
理事	村上　健俊	事務
理事	村上　渡	事務
理事	八島　将仁	事務
理事	柳谷　円	事務
理事	山内　潤	看護師
理事	山﨑　英二	事務
会計監査	荒木関匡孝	事務
会計監査	工藤　敏子	事務
会計監査	坂野　友昭	事務

特集　青森県民主医療機関連合会 第55回定期総会

青森民医連理事役員退任の挨拶

青森保健生活協同組合
理事長 横田祐介

県連理事としての任期は長くて覚えていませんが、副会長は二十年くらい務めました。皆さんのご協力のおかげで続けることができました。ありがとうございました。この間、民医連綱領を高く掲げ、理事として各種活動に取り組んできました。目に見える大きな成果は多くはないかもしれませんが、私たちの信念・信条を大切にしながら諸活動に取り組み、確信につなげることができたと考えています。全国の取り組みにも県連・法人の取り組みにも、理事として積極的に参加してきました。青森市における三法人の統一とその象徴であるあおもり協立病院の建設、九十年代終わりからは津軽保健と青森保健両法人の経営困難の克服、最近では健生病院・クリニックのリニューアル成功のために力を結集してきたこと等、記憶に残ることが数多くあります。今期で県連の理事は降りますが、これからも心は青森県連に置いて県連の一職員としてがんばる決意です。最近あまり耳にしませんが、「民医連は一つ」と以前は合言葉のように言っていました。働く地域、事業所は違うけれど、民医連綱領で結ばれているという意味です。こころは一つ、民医連は一つ、もちろん県連も一つです。

皆さん、長い間ありがとうございました。

青森保健生活協同組合
看護部長兼人事部長　野村美恵子

十六年間県連の理事を務めました。途中五年間県連出向し、その間全日本民医連の理事も務めました。全日本理事の時に東日本大震災があり、災害に対し民医連は全国どこからでもどこへでも駆けつけ、そして支援を続ける姿を目の当たりにしました。「原発なくせ」の代々木公園の二十万人規模の集会にも参加しましたが、いつまでも終点にたどり付けないほど多くの人のうねりの中で、「この国は変わる、原発はなくなる。」と本気で思いましたが、またいつの間にか再稼働している現状を見ると、この国はおかしいと怒りを覚えます。現在、新たな困難な時代を迎えていますが、民医連はこれまでもこれからも、最も困難な方たちのために存在し続けなければならないし、平和な日常を脅かすものとは闘い続けなければなりません。私は今期退任しますが、これからも微力ながら活動を続けていきたいと思います。ありがとうございました。

感想文から

～県連定期総会の内容や運営等についての意見・感想～

◆新型コロナウイルスにて経済的に打撃を受けている人たちが多くいるので、民医連の断らない医療等、今一度職員と共有し直して活動していきたい。

◆コロナの影響とは言え、二年に一回行われる総会を縮小して開催できたことは大変良かったと思う。しかしながら、各法人や委員会が二年間活動してきたことが報告されないのはとても残念だと感じる。ぜひ、コロナの影響が収まった頃にでも報告会や冊子にして配付していただきたい。その際には退任する方からのメッセージもいただきたい。

～今後二年間の課題をどのように受け止めたか？～

◆新型コロナウイルスの影響を受けて、全ての行動や活動を見直すことになったと思います。できていたことができないマイナスだけではなく見直すきっかけとなり、省略化、ムダを省く、経費削減につながり新しい方法論を検討していくことがすべての課題に向けた取り組みに必要なのではないかと思います。

◆今現実に起こっている社会情勢と私達が県連、法人の職員として何をしていかなければならないかを確認できました。

万全の新型コロナ対策のもとでの県連総会となりました。

2020年度 通常総代会

津軽保健生活協同組合

二〇二〇年六月二十日津軽保健生協第九十五回通常総代会が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策のため出席者や日程等を縮小して開催しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のために、出席総代・理事・職員の出席人数をなるべく少なくして「密」を防ぐとともに、開催時間も約一時間弱と大幅に内容を縮小して行いました。例年と全く異なった形での開催となりましたが、すべての議案が満場一致で採決され滞りなく終了することができました。（津軽保健生活協同組合生協本部　総務部次長／古村律子）

会場の様子

青森保健生活協同組合

二〇二〇年六月十九日（金）、生協さくら病院〇Tホールにて、青森保健生協二〇二〇年度通常総代会が開催されました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、実参加者数を絞り、書面議決による参加を主とする運営（本人出席二十七名・書面議決書百七十三名）とし、開催時間についても、十時から十二時までと短縮しました。参加者においては、検温と手指消毒・常時マスク着用とし、ソーシャルディスタンスや室内の換気などできうる限りの感染対策を講じての開催となりました。

二〇一九年度の活動報告と決算、二〇二〇年度の事業計画と予算、また中部エリアおよび安方エリアの事業再編に関する件などが審議され、第一号議案から第七号議案のすべての議案が満場一致で採択されました。（青森保健生協総務部次長／坂野友昭）

会場の様子

八戸医療生活協同組合

二〇二〇年度八戸医療生協の第三十二回通常総代会は、六月二十七日（土）に八戸市福祉公民館で開催されました。

コロナの影響で出席者を理事・監事、総代において最小限にしぼり、短時間で行うこととしました。当日は、総代の実出席は百三十名中二十一名、書面議決書百九枚という状態での開会となりました。また各議案については、質問や意見を前もって集約し「質疑応答一覧」を作成し当日に配布しました。当日の活発な討議が制限される中でしたが、各議案とも賛成多数で採択され、無事終了しました。（八戸医療生協　組合員活動部／佐々木美音緒）

挨拶する中道博章理事長

会場の様子

新事業所紹介

福祉用具サービス 七ツ星

社会福祉法人虹では新規事業として2020年4月から、一般社団法人あおもり健康企画「福祉用具サービスあけぼの」から事業を引き継ぎ、「福祉用具サービス七ツ星」として職員4名でスタートしました。

今までの利用者様はもちろん、新しくご利用していただいているご利用者様の日常生活を支えていけるよう日々奮闘しています。福祉用具では、ベッドや車いすのレンタルの他、ポータブルトイレやシャワーチェア等の販売もしています。また、介護度の低い方を対象に自費での介護ベッドレンタルも行っています。

新規事業展開として、住宅改修にも取り組んでいます。今後も更に選んでもらえる事業所になるよう、商品一つ一つの特徴を理解し、ご利用者様に合った福祉用具を提案・提供していけるよう学習していきたいと思います。

最後に「七ツ星」の由来ですが、福祉用具を利用することで安心して楽しく日常生活が送れるようスタッフが献身的にサポートしていく、という意味を込めて、童話の「七つの星」からいただいた事業所名です。由来に負けないよう頑張っていきたいと思いますので、「福祉用具サービス七ツ星」を今後ともよろしくお願いします。（社会福祉法人 虹　福祉用具サービス七ツ星／福沢絵理子）

原水爆禁止国民平和大行進 2020

弘前～矢立峠　　浅虫～野辺地～八戸

太平洋コース

六月十日、二〇二〇年原水爆禁止国民平和大行進・太平洋コースに参加しました。

晴天の中約二十人が集い、青森市から平内町、六ケ所村、横浜町等をまわり、各役場前で「核兵器をなくそう」の横断幕やパネルで平和をアピールし、町長らと懇談。この日最後の野辺地町で、十和田市や八戸市からの参加者にペナントを引き継ぎました。

今年はコロナ禍のため行進せず、宣伝カーやスタンディングアピールの行動でしたが、形はどうあれ思いはひとつ。平和を願う思いが広島、長崎をめざし、日本列島を縦断していきます。

（あけぼの薬局妙見店／室谷恵美）

青森県教育会館前出発時

平内町役場前にてスタンディングアピール

日本海コース

被爆者とともに核兵器のない世界を

～コロナ渦でのスタンディングアピール～

六月十日（水）毎年恒例の原水爆禁止国民平和大行進へ参加しました。今年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、弘前市役所前でスタンディングアピールを行うという異例の形式でした。

例年の形式とは打って変わって行われた今回でしたが、幸いにも天候には恵まれ弘前市役所前で小規模開催することが出来ました。今回が行事初参加となるファルマ弘前薬局の新入職員にとっては残念な形となりましたが、平和大行進の概要は伝える事が出来たと思います。

（ファルマ弘前薬局／立崎天之介）

新入職員の中西茉季さん（左）

▶▶▶ 新型コロナウイルス対策の報告

●健生病院・健生クリニックでの対応

健生病院は3階東病棟の一部を陽性および疑い患者の入院病床として確保をしています。また、新型コロナウイルス感染症対策として、面会の制限をしています。面会は病院から来院要請があった方のみ可能としています。院内のエレベーター前にて、要請があった方かどうかを確認させていただいています。複数で面会に訪れた面会者への対応としてiPadを使用したオンライン面会を実施しています。また夜間・休日の病院正面玄関を施錠し、来院者は夜間通用口の通行をお願いしています。今後第二波が発生した場合に備え、屋外に陰圧テントを使用した発熱者外来の設置を計画しています。

健生病院病棟受付

健生クリニックでは入口にて来院者へ声掛けをして、家族含め県外からの移動歴を確認しています。移動歴があった患者に対しては必要に応じて自家用車や別な場所で待機してもらい、診察を行う対策を実施しています。

健生クリニック受付の様子

健生病院・健生クリニックでは職員アンケートの実施やメンタルヘルス相談室を設置し、少しでも新型コロナウイルスに対する不安の軽減になるよう対策を施しています。（健生病院事務局／波多野宏行）

●ファルマ弘前薬局の取り組みについて

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中で、地域住民の方々は思いもよらない事態に大変ご苦労されていることと思います。日頃お世話になっている患者様や地域の方々に対し、ファルマ弘前薬局では、私たちにできることはないか日々考え模索しています。

手作りマスク

ファルマ弘前薬局では、職員から最近の気になるニュースについて発表する時間が設けられています。その際、高齢者の方々にとって制度の活用方法など、仕組みがわかりづらいのではないかという点が問題視されていました。これを受けて、各種制度が利用しやすいように、待合室の壁一面に厚生労働省のホームページから引用した、ＱＲコードのついた用紙を掲示しました。お薬を待つ間、熱心に見ている方や、実際にＱＲコードを読み込んでいる方もいらっしゃいました。また、弘前市の特別定額給付金の緊急申請用紙も窓口に置きました。その他にも、マスク不足により患者様から在庫の確認のお問合せが多かった為、少しでもお役に立てればと思い、待合室に手作りマスクの作成方法の紙と、実際に作った見本を置きました。

生活を支えるための支援のご案内

コロナの終息までには、まだまだ時間はかかりそうですが、そんな時だからこそ、お互いに助け合い、想い合う心を忘れてはならないと思います。

今後も、できることを見つけ、患者様に寄り添っていきたいと思います。（ファルマ弘前薬局　主任／須藤江利加）

県連事務局人事往来

この度青森事務所に出向となりました。今後は、県連について学びながら、発展のため力を尽くしていきたいと思います。まずは自分の任務を全うできるよう努力していきます。どうぞ宜しくお願い致します。

着任 **下舘（しもだて） 大史（だいし）**
（青森民医連青森事務所）

2016年から4年間、県連事務局次長という重責を担わせていただきました。多くの職員のみなさんと仕事をする事ができ県連的視点を養う事ができた事は民医連人生の中で貴重な経験になりました。今後八戸に帰任しますが、県民医連に結集する事で自身の新たな前進につなげていきたいと思います。4年間ありがとうございました。

帰任 **木村（きむら） 儀弘（よしひろ）**
（青森民医連青森事務所⇒八戸医療生協本部）

八戸医療生活協同組合より、6月1日付で青森民医連弘前事務所に着任致しました佐々木啓太と申します。医学生の民主的成長と将来の青森民医連を引っ張っていく後継者確保のため、甚だ微力ではございますが全力で取り組み、また、私自身も医学生から学び、成長していきたいと思っております。宜しくお願い致します。

着任 **佐々木（ささき） 啓太（けいた）**
（青森民医連弘前事務所）

津軽保健生協の弘前市役所交渉

四月二十三日津軽保健生協は弘前市（以下、市）に対し、「新型コロナウイルスに係る資格証明書の取り扱いに関する要請」を行いました。要請では資格証明書の患者の対応や新型コロナウイルス対策をすすめる医療現場の危機感を伝えました。

社会的弱者の感染多い

冒頭の挨拶で、健生病院の伊藤真弘院長は「世界的にも社会的・経済的に低い立場の人たちは新型コロナウイルスの感染率が高く、重症化しやすい傾向にある。今回は医療にアクセスしづらい資格証明書の方の対応と、地域の医療体制の問題意識を共有したい」と話されました。

健全な制度運用を

健生病院の泉谷事務局長は「厚生労働省が新型コロナウイルス拡大のリスクを抑えるため資格証明書世帯に短期保険証を発行することを通達しているが、世帯に案内がされているか？」と質問し、市は「郵送で案内している」と返答しました。それに対し、サポートセンター長の工藤SWは「手紙だけではなく広報やホームページなど広く掲載していただきたい」と訴えました。さらに工藤SWから要請前日に資格証明書で健生病院を受診した患者の事例について報告があり、生活保護受給中の母親が別居している資格証明書の子どもを受診させるため市に五千円払って短期保険証を発行させた対応を問いただしました。

医療現場の声届ける

続いて寺島看護部長より医療現場の声が報告され、子育て中のスタッフから「保育園が休園になると病院で働けない」という不安の声を紹介されました。地域医療を守るために、市として情報の発信をしてほしいと要望し、訪問看護からは「在宅で介護している人が感染した場合はどうすればよいのか」という声に対して、市としてはその場で具体的に返答はできず、現場の声を通じて今後の感染予防対応を検討していく段階でした。

（青森民医連／矢作史考）

津軽保健生協の市役所交渉

医学対 新入生の良医への道の援助をWEB企画で実現！

青森民医連弘前事務所は新型コロナウイルスの影響により、医学生と物理的距離を取ってwebの学習企画などを行っています。

4月25日（土）午後、中部クリニックの診察室でドクターズウェブミーティング「総合診療医と語る会」を開催し、新入生14名、在学生3人が参加しました。

冒頭、講師の竹本歩医師は新型コロナウイルスで外出自粛している新入生を激励。その後は総合診療医の業務内容や思考などを語りました。参加した新入生からは「竹本先生の『医療は人の生きていくことの難しさを学ぶ』との話が印象に残りました」「将来、共に誰かの助けとなれることを楽しみにしています」と感想が出ました。

4月25日の竹本医師の様子

健生病院の伊藤医師は4月28日（火）と5月8日（金）に新型コロナウイルス学習会を開催し、コロナ禍での差別問題などを考えました。5月30日（土）は健生病院小児科の高橋夏生医師が新入生とwebでカンファレンスを行い、子どもの貧困の実態とアプローチを学びました。6月5日は健生病院の境医師が「外科におけるSDH」をテーマに行いました。今期、初めて開催したweb企画は好評で、新入生5人以上が参加している状況です。

6月5日の境医師の様子

医学対は医学生を「日本の医療を良くする」パートナーにしていくことが任務であり、新入生の想いに寄り添う企画を通して医学生と出会うことが必要です。新型コロナウイルスが収束するまでは医学生と物理的距離を保ちながら心は密に、継続的に学習や交流を行い、医学対を行っていきます。

（青森民医連／矢作史考）

あおもり民医連 288号 発行日 2020.7.15 発行部数 2,880枚 AOMORI MIN-IREN

新型コロナウイルス対策の報告

八戸医療生協 住宅型有料老人ホーム 生協 たむかいの家

住宅型有料老人ホーム生協たむかいの家では、五月八日から無料通話アプリ「ライン」のビデオ通話機能を使い、入所者と家族が動画で会話するサービスを開始しました。

入居者

新型コロナウイルスの感染予防の為に面会を中止しておりましたが、長い間会えないことで不安の声や「元気な顔を見たい」と要望が多くなったため、法人で協議し、オンライン面会を実施しました。施設のタブレット端末にて、画面越しで面会していただき、皆とてもうれしそうに「元気で良かった」「ティッシュもってきてくれ」等々会話を楽しまれました。

毎日面会していた奥さんは「五十日ぶりにお父さんの顔がみられた」と涙ぐんだり、百六歳のおばあちゃんは「(息子が)元気でいて、生きていてよかった」とうれし涙を流していました。関東在住のご家族様も施設まで来訪されなくとも、入居者様との会話が出来ました。

家族

入居者様のうれしそうな様子やご家族様の安心した様子をみると、会える時間を提供することが出来て、取り組んで良かったと感じております。

今後もご家族様との連絡手段のツールとして活用していきたいと考えています。

(住宅型有料老人ホーム生協たむかいの家 施設長／八森真美)

うちのメゴっこ vol.57

うちの天使たち

お姉ちゃんが好きすぎて、しがみつく弟(#^.^#)

我が家には中学2年生の女の子と5歳の男の子の姉弟がいます。5歳の弟は四六時中ふざけており、「クレヨンしんちゃん」のようです。それに加え、感情が豊かすぎて手がかかりますが、絶妙なタイミングでやさしさをみせる憎めない子です。そんな弟は、いつも優しく面倒見がいいお姉ちゃんが大好きで片時も離れません。お姉ちゃんは勉強をしながら、「小さなお母さん」をしてくれるしっかりものです!二人の元気で純粋な笑顔が、何よりの癒しであり、私の元気の源です。この天使たちのためにも、いつまでも健康でいながら仕事と家事を頑張っていきたいと思います。(津軽医院／兵藤尚子)

パワー全開で遊んだ後は、二人仲良く居眠りです(*'▽')

私の三つ星★★★

オススメ (ぷち)旅Run

私がランニングを始めたのは3.11震災のあった2011年・35才からで今年で走歴9年になります。最初は軽くジョギングしただけで2~3日筋肉痛…でしたが、今ではフルマラソンを3時間台前半で走れるくらいにまでなりました。

旅Runではバッグパックやボトルポーチを身に着けて走ります

大会で自己Bestを狙うのも楽しいのですが、休日にドライブ先・旅先等で普段は見慣れない街や自然の風景を、ゆっくり長~く走りながら味わう「旅Run」が特に好きです。

今年は新型コロナ禍の影響もあり今は遠出は出来ませんが、近隣の市町村やちょっとした自然に(言葉通り)足を伸ばして駆け巡り、帰りに温泉に入って美味しい料理を味わう「(ぷち)旅Run」で自然免疫力を向上させたいものです。(青森県医療事業協同組合／山崎潤平)

旅Runコース:八戸市の大須海岸「みちのく潮風トレイル」(2018年撮影)

7月 2020年7月 第3回理事会報告

- >> 全日本民医連理事会報告
- >> 決裁事項
  - 看護学生奨学生申請
  - 全日本民医連委嘱(第3・4次)
  - 県連青森事務所　移転について
- >> 協議事項
  - 55期各種委員会について
  - 55期方針と課題(案)について
  - コロナウイルス対応について
  - 協立病院幹部医師配置について
  - 2020年原水爆禁止世界大会に向けた取り組みと、緊急募金について
  - 医科・薬科法人　「要対策項目」該当状況
- >> 各法人総代会・総会について
- >> 会務報告/各委員会・医師委員会報告